堀病院

高気圧酸素治療装置を導入

突発性難聴を治療する高機能機

東側1・2階を造設して設置

耳鼻咽喉科・眼科・頭頸部外科・内科の医療法人徹慈会堀病院（福山市沖野上町3-4-13、宇高　毅理事長、電084・926・3387）はこのほど、病院南東側の1・2階を造設（鉄骨造、延べ床230㎡）＝**写真上**。1階奥の部屋（30㎡）に突発性難聴を治療する高気圧酸素治療装置を導入した＝**写真下**。

突発性難聴は突然耳が聞こえなくなる病気で、発症の原因は不明。ただ、内耳内にある音を感じる細胞「コルチ器」が酸素不足になると音が感じづらくなるそうで、その器官に十分な酸素を供給することで症状を改善させる効果があるといわれている。

同装置は米国製で、長さ約2・2m、径1mの強化アクリル製の透明な筒があり、内部は2気圧（水深10mと同じ程度の気圧）にまで加圧され、高濃度（100％）の酸素で満たされる。これにより効率的に酸素を血液内に取り込むことができる。加減圧に各15分、治療に60分で、合わせて90分間の治療になる。スピーカーが頭上にあって音楽が流され、装置外との通話も可。コンピューター制御で管理されるが、手動操作もできる。

突発性難聴は発症から1ケ月以内に治療をすれば、回復が期待できる数少ない感音難聴のひとつといわれており、「耳が詰まった感じがする」「耳鳴りがとまらない」などの初期症状が現れた際は、なるべく早めに受診することが勧められている。同治療法は保険適用で、1回あたり9千円（3割負担の場合）の費用（再診料や薬代など別途）がかかる。治療回数は10―30回程度で、症状に合わせて医師が診断する。

同病院ではこれまで年間100人程度の患者の治療を行ってきた。同治療法は以前から行われており、宇高理事長（48）も以前勤めていた九州労災病院などでは実際に使っていた。同病院は14年に新築し、15年に眼科、19年に内科を開設。7月から増築を始め、このほど完成し、内科の診察室を広げて導入した。今後はもう1台増やす予定。

宇高理事長の話「かねてより患者のニーズが高かった治療機器で、市内では2施設目の導入となりますが、突発性難聴を対象に使うのは福山では当院のみです。全てのケースに有効とは申せませんが、軽減・快癒される方も大勢いらっしゃいます。従来の投薬や他の治療法などと組み合せ、少しでも治癒の可能性を高めていきたい」。